



DRPネットワーク 関西ブロック

「お客さま感謝祭」開く

「東日本大震災復興支援・がんばろう日本」

DRPネットワーク関西ブロックは9月22日、お客さま感謝祭「東日本大震災復興支援・がんばろう日本」をリーガロイヤルホテル京都(京都市下京区)で開催した。当日は保険会社関係者をはじめ、代協役員や協賛会社、DRPネットワークの全国ブロック長ら約140人が出席した。第一部は神護寺貫主谷内弘照氏が「神護寺開創と両大師の活躍」についての基調講演、第二部では舞妓の踊り、中国民族芸術団・中国大黄河雑技団の伝統芸能が披露され、会食を楽しみながら顧客との懇親を深めた。関西での感謝祭は初めてとなる。



津島氏



田村氏



谷内貫主

DRPネットワーク 到来を見据え、「Auto をキャッチフレイズに、は、損保のDRP(指定 One, One for All 自動車钣金塗装修理業者工場制)、PPO(指定 二(一人は皆のため 自らが立ち上げた開かれた工場特約付保険)時代の ネットワーク。このネ

ネットワークの運営母体としてDRPネットワーク(株)が設立され、中立で公平なポリシーのもと、質の向上と規模の拡大を図り顧客と加盟店工場が共有できるシステムを構築しており、今年で11年目を迎えている。

午後4時半から始まった感謝祭では、東日本大震災による犠牲者の冥福を祈った後、DRPネットワーク(株)の津島一貴代表取締役社長が「加盟店工場の3工場が津波で流され、3人の犠牲者が出た。関西は、阪神淡路大震災を経験しており、復興支援を今回のテーマにした」とあいさつ。また

関西ブロック長のエーシースペースタムラの田村正行代表取締役は、「感謝祭を2月から計画していたが、震災が起こり自粛の意味で白紙に戻した。いろいろな意見があつて今日を迎えた」と感謝祭開催に踏み切った経緯を述べた。

加盟店会長の吉村潔氏(九州・伸自動車)は、「11年目を迎え、今年はずっと超え入庫誘導の見直しを立てており、8月には単月で2000台以上の紹介を受けた。九州でも感謝祭を開催している。昨年は鹿児島で行い、鹿児島県代協は2年続けて全国第1位



盛況となった会場

字を上げていことに「大いに心があつた」と述べた。また、DRPが被災した仲間へ義援金を贈ったことに敬意を表した。

朝日火災の藤田悦治は宮崎で行ったが、宮崎県代協は8月単月で1位となつた」と実績を披露した。

来賓として出席した京都代協の松田治孝会長は「テレビや新聞で被災地の映像・写真を何回も見ているが、実際に被災地へ赴き現状を確認してきべ、保険金を支払う立場から、損保協会がホームページで記している交差点での自動車事故ワースト5について、「自動車事故の多くが交差点で起きている。交差点での事故防止が重要」とあいさつした。

基調講演では、神護寺の谷内貫主が「神護寺開創と両大師の活躍」について講演した。同氏は、平安時代の「義の人」と和氣清麻呂公、「慈愛の人」と慕われた女官和氣廣虫の考え方から同氏が貫主を務める神護寺のかかわり、さらに平安仏教を切り開いた若きリダー最澄と空海の交わりと決別に至るまでを解説した。最後に弘法大師の四つの心「慈・悲・喜・捨」を紹介し、心の糧としてほしいと締めくくった。

岡本貞雄専務理事は、全国DRP加盟店で募っていた義援金の内容について、加盟店工場453社と同社を合わせ3月から6月までの間に327万円の義援金が集まったと報告した。また、この義援金を被災した3工場と岩手、宮城、福島代協へ贈ったと報告。受け取った平野隆夫東北ブロック長代理福島地区部長が謝辞を述べ、名高正一和歌山地区部長の閉会あいさつで第一部が終了した。